

| | | | |
|--|---|-----|---|
| 研究構想シート | | 学校名 | 雲南市立阿用小学校 |
| | | 氏名 | 吾郷 美保 |
| A 研究主題 自分事として考え、明日をつくる子どもの育成～社会科（生活科）等を中心とした実践を通して～ | | | |
| B 研究の目的 自分事として考え、明日をつくる子どもを育てるために、生活科や社会科等の時間において、単元構想と授業づくりの方法について研究する。 | | | |
| C 子どもの実態 ○素直で明るく、何事にも真面目に取り組もうとする子どもが多い。 ○与えられた課題に一生懸命取り組んでいる。 ○学び合う力が育ってきており、話し合い場面では自分の思いを抵抗なく表現できる児童も増えてきている。 △自分で課題を発見することが難しい。 △「自分の課題を解決する方法が分からない。 △粘り強く課題解決に取り組みにくい。 △分かってはいるけれど、自分事としてとらえることができない。 | E 手立て・内容（研究仮説） ①「問い」を引き出す導入や課題設定の工夫をすれば、課題を発見できる子どもが育つであろう。 ②問題解決的な学習過程や発問を工夫すれば、見通しをもって課題を追究したり解決したりする子どもが育つであろう。 ③自主的な学びにつなげるための活動や環境づくりを工夫すれば、学びを振り返ることができる子どもが育つであろう。 | | D めざす子どもの姿 ○課題を発見できる子 ○見通しをもって課題解決できる子 ○学びを振り返ることができる子 |
| | F 検証方法 ①児童検証アンケート（年2回） ・生活科や社会科の時間に関する意識調査や、研究のねらいに沿った質問項目を設けて、変容を分析して効果を検証する。 ②職員アンケートと学校評価（年度末） ・研究の内容とともに、児童の様子等についてふり返り、児童アンケートとの相関を見て検証をする。 ③児童の発言や活動の様子、児童のワークシートやノートなどの検証 ④授業者による取り組んだ単元等による成果と課題の検証（年2回） | | |
| | G 研究計画 4月～5月 研究主題・目標・目的等決定 6月 授業実践・アンケート内容検討・大会要項原稿作成 7月 児童アンケート・校内研修（出前講座） 8月 校内研修（実践報告会）・提案発表資料作成 9月 授業実践・提案発表準備 10月 授業実践・プレ発表会 11月 授業実践・全小社研究大会学年別提案発表 12月 授業実践・児童アンケート 1月 校内研修（実践報告会） 2月～3月 成果と課題のまとめ・来年度の方向性検討 | | |